

研究船が参加してすでに行われており、さらに本年の4月に東京で開かれたワークショップによって太平洋赤道域でのプロセス研究が1990年から始められ、又南極海やインド洋においても計画が進められている。

3. JGOFS における日本の役割

わが国の研究者は JGOFS 国際共同研究を計画のスタートの段階から積極的に支持しており、特に太平洋におけるフラックス研究においては、アメリカと並んで主導的な地位を果たすべく国内の研究計画を進めてきた。その一つの現れは、1991年度から3年間行われることになった。文部省重点領域研究“オーシャンフラックス”である。この重点領域研究では、東大海洋研究所の白鳳丸などを使って、北部北太平洋域における炭素を中心と

したフラックスの解析が表層域から深層・深海底までに行われて行われる。また気象庁・水産庁等の研究所に属する研究者も太平洋域での炭素循環に関連した多くのプロジェクトを進行させており大きな成果が期待されている。さらに1995年に予定されているオーシャンカラーのセンサーを搭載した観測衛星“ADEOS”の打ち上げによって、現在は航空機に頼っているオーシャンカラーの観測データを JGOFS 研究者に供給することができる。アメリカでもオーシャンカラーのセンサー打ち上げを90年代の初めに予定しているが、不確定要素も多く、世界の JGOFS 関連の研究者の日本のセンサーによせる期待は大きい。

(東京大学海洋研究所・小池勲夫)

日本気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所	備 考
大気汚染学会	1990年10月31日 ～11月2日		金沢	
日本海洋学会	1990年11月10日 ～15日		神戸(神戸国際会議場)	
第22回流体力学講演会	1990年11月15日 ～16日	日本流体力学学会	大阪(なにわ会館)	
生気象学会	1990年11月16日 ～17日		長崎(長崎熱帯研究所)	
地球電磁気・地球惑星圏学会	1990年11月19日 ～21日		大宮(ソニックシティビル市民ホール)	
環境科学会	1990年11月28日 ～30日		東京(虎の門パストラル)	
第11回風工学シンポジウム	1990年12月6日 ～7日	同専門委員会	中央大学理工学部	Vol. 37, No. 1
月例会「レーダー気象」	1990年12月18日		気象庁	
日本リモートセンシング学会 第10回学術講演会	1990年12月18日 ～19日	日本リモートセンシング学会	中央大学駿河台記念館	
第37回風に関するシンポジウム	1991年1月25日		気象庁	Vol. 37, No. 8
気候変動による環境・社会影響に関する国際会議	1991年1月27日 ～2月1日	UNEP	筑波大学	Vol. 36, No. 11
第23回海洋流体力学リユージュ国際コロキウム	1991年5月6日 ～10日		中国(北京)	
降水洗浄と大気-地表面間交換過程に関する国際会議	1991年7月15日 ～19日	カナダ気象海洋学会・アメリカ気象学会	リッチランド	Vol. 37, No. 8
第20回測地学・地球物理学連合総会	1991年8月11日 ～24日	IUGG	ウィーン	Vol. 36, No. 12
『小氷期の気候』国際シンポジウム	1991年9月25日 ～28日	日本地理学会古気候復元研究グループ	八王子(東京都立大学)	Vol. 37, No. 8